

戦 後 の 補 欠 選 挙

佐 藤 令

目 次

はじめに	5 統一補選の導入
I 補欠選挙に関する規定の変遷	II 選挙結果の概観
1 大選挙区制における衆議院補欠選挙	1 補選における投票率
2 中選挙区制における衆議院補欠選挙	2 主要政党の当選率
3 参議院の補欠選挙	III 補欠選挙結果一覧
4 小選挙区比例代表並立制における衆議院補欠選挙	

はじめに

「補欠選挙」とは「議員が辞職または死亡したこと等により欠員が生じた場合に、その欠員を補充するため⁽¹⁾」に行われる選挙のことである。「当選人が得られない場合または当選人が不足する場合に、その当選人の不足を補充するため⁽²⁾」に行われる「再選挙」とともに、公職選挙法第11章に規定される「特別選挙」の一類型である⁽³⁾。補欠選挙は「議員の不足」を、再選挙は「当選人の不足」を補うものと言える。

補欠選挙は、その選出人数の少なさに比べて非常に大きな影響力を持つことがある。各政党

はその補選が実施される選挙区に集中して力を注ぎ、メディアの注目も集中する。また、議員の死亡によるいわゆる「弔い選挙」や、不祥事の引責辞任による補選など、補選をもたらした事由の影響が反映されがちであるとも言えよう。

このように衆議院総選挙や参議院通常選挙とは異なる独自の傾向が表れる補欠選挙ではあるが、補選だけの結果をまとめた資料は見受けられない。本稿では戦後に行われた衆議院議員及び参議院議員の補欠選挙及び再選挙について、その概要を記すとともに、結果を列挙することとする⁽⁴⁾。

(1) 自治省選挙局『選挙用語辞典』帝国地方行政学会, 1968, p.429.

(2) 同上, pp.140-141.

(3) 特別選挙には、ここで挙げた選挙の他にも増員選挙、設置選挙などがある。

(4) 本稿は衆議院議員総選挙及び参議院議員通常選挙についての資料では調べることのできない選挙の結果を通覧できることを目的とした。したがって「合併選挙(欠員が一定の数に達せず、本来は補欠選挙は行わないはずであるが、同一の公職の選挙が行われることとなった場合に、当選者数を増やした上で1つの選挙として行うもの。参議院通常選挙に併せて参議院補欠選挙を行うのがこの例である)」は『参議院議員通常選挙結果調』等の資料で結果を調べることができるため列挙していない。また、総選挙または通常選挙と別に行われた奄美群島及び沖縄の復帰に伴う選挙はここに列挙した。無投票当選の事例は含めた。選挙を行わずに欠員を補充する「繰上当選」及び「更正決定」の事例については含めていない。

I 補欠選挙に関する規定の変遷

議員が欠員となった場合でも、欠員が一定の数に達しなければ補欠選挙は行われない。この「一定の数」についての規定は、数次の改正が行われている。それらの改正と、その他の補選についての制度の主要な改正について、ここで触れておきたい。

1 大選挙区制における衆議院補欠選挙

昭和20年の衆議院議員選挙法の改正によって、衆議院選挙は原則として各都道府県を選挙区とする大選挙区制で行われることとなり、各選挙区の定数は2名から14名までとなった。補欠選挙は、欠員が当該選挙区の定数の4分の1を超えた場合（その数が2未満となる場合は2名）に行うこととされた⁽⁵⁾。しかし、大選挙区制下での総選挙は昭和21年4月10日に行われた1回限りで、翌年4月25日には中選挙区制に制度改正された総選挙が行われ、この間に補欠選挙は一度も行われなかった⁽⁶⁾。

2 中選挙区制における衆議院補欠選挙

昭和22年の衆議院議員選挙法の改正によって、衆議院選挙は定数が3名から5名までの中選挙区制で行われることとなり、補欠選挙の条件は

定数に関わらず一律に「欠員2」となった⁽⁷⁾。この条件は昭和25年制定の公職選挙法にも受け継がれ⁽⁸⁾、小選挙区比例代表並立制が導入される平成6年まで改正されなかった。任期の平均が約3年の衆議院において、ひとつの選挙区から欠員が2名生じることはそれほど多くなく、中選挙区制下の約49年間で、補欠選挙は19件行われたに過ぎない⁽⁹⁾。

3 参議院の補欠選挙

昭和22年に制定された参議院議員選挙法により、在任期間を同じくする議員の定数の4分の1を超えるに至ったときに補欠選挙が行われることとなった⁽¹⁰⁾。この「4分の1」という条件は公職選挙法にも受け継がれ⁽¹¹⁾、現在まで改正されていない⁽¹²⁾。参議院の地方区（選挙区）選挙は改選定数が1名以上4名以内で行われるので、改選定数4の選挙区⁽¹³⁾においては2名の欠員を条件としたが、その他の選挙区では1名の欠員で補欠選挙が行われることとなった。さらに、衆議院議員より任期が長いことにより、衆議院より頻繁に補欠選挙が行われ、現在まで約58年間で154件の補欠選挙が行われている⁽¹⁴⁾。なお、全国区及び比例区の補欠選挙は、繰上補充を行った上で、欠員が定数の4分の1を超えた場合に行われるが、現在まで行われたことはない⁽¹⁵⁾。

(5) 衆議院議員選挙法（大正14年法律第47号）第79条（昭和20年法律第42号の改正による）。

(6) ただし昭和21年総選挙では、法定得票に達した候補者が定数に満たなかった選挙区があり、2件の再選挙が行われた。

(7) 衆議院議員選挙法第79条（昭和22年法律第43号の改正による）。

(8) 公職選挙法（昭和25年法律第100号）第113条第1項第1号。

(9) この他3件の再選挙が行われている。

(10) 参議院議員選挙法（昭和22年法律第11号）第71条。

(11) 公職選挙法第113条第1項第2号。

(12) 現在は同法第113条第1項第4号で規定されている。

(13) 東京都選挙区及び平成4年までの北海道選挙区がこれに該当する。

(14) この他2件の再選挙が行われている（うち1件が注(5)に記した全国区の再選挙である）。

(15) 一部選挙無効による全国区の再選挙は昭和29年に行われている。本稿p.85参照。

4 小選挙区比例代表並立制における衆議院補欠選挙

平成6年の選挙制度改革により、衆議院選挙には小選挙区比例代表並立制が導入された。小選挙区においては欠員が1名生じると直ちに補欠選挙を行うこととなり⁽¹⁶⁾、中選挙区制下と比較して補欠選挙の数が増加した。平成8年の並立制による初の総選挙以降現在まで約9年間に29件の補欠選挙が行われている。なお、比例区の補欠選挙は参議院の比例区と同じ条件下で行われるが、現在まで行われたことはない。

5 統一補選の導入

衆議院の補欠選挙の増加に伴い、欠員が生じる度に選挙を行うことが問題視されるようになった。そこで、平成12年の公職選挙法の改正によって、同年10月から、国民の選挙への関心を高めること及び経費を節減することを目的として、衆参の補欠選挙を4月と10月の年2回に統一して行うこととなった⁽¹⁷⁾。また、議員が辞職(退職)したことによって行われる補欠選挙には、当該辞職(退職)議員は立候補することができないものとした⁽¹⁸⁾。

II 選挙結果の概観⁽¹⁹⁾

1 補選における投票率

補選の低投票率について問題にされることが多いが⁽²⁰⁾、総選挙や通常選挙の投票率が高い時期にあっても、補選の投票率は概して低いものであった。投票率は地域や時期など様々な要因が影響するので、推移を読み取るのは難しく、補選の投票率を論じた資料はほとんど見られない⁽²¹⁾。本稿ではあえて大きな流れを把握するために、10年ごとに投票率を平均した数字の推移を求めた。以下の表の通りである。

総選挙・通常選挙の投票率が明らかに低落傾向にあるのに比較して、補選の投票率は一概に低落傾向にあるとは言いがたい。詳細な分析は様々な要因を考慮して行うことが必要であるが、いずれにせよ低投票率の問題は、補選以上に総選挙・通常選挙におけるものの方が深刻であると言えよう。

平成8-17年の期間における補選の平均投票率が上昇しているのは、一般的に投票率の高い衆院選の補選が増加したことの影響と思われる。平成12年10月に行われた補選の統一は「国民の選挙への関心を高める」という目的があったが、

	昭和21-30年	31-40年	41-50年	51-60年	61-平成7年	8-17年
総選挙・通常選挙の平均投票率	70.76%	68.24%	69.27%	68.24%	62.03%	60.19%
補欠選挙の平均投票率 ⁽²²⁾	51.21%	49.95% (49.36%)	53.49% (52.75%)	52.64% (51.84%)	45.16% (42.77%)	47.91% (46.77%)

(16) 公職選挙法第113条第1項第1号(平成6年法律第2号の改正による)。

(17) 公職選挙法第33条の2(平成12年法律第62号の改正による)。

(18) 公職選挙法第87条の2(平成12年法律第62号の改正による)。

(19) II章中、特に注記のない限り「補欠選挙」「補選」には再選挙を含むものとする。

(20) 例として「補選統一以来3番目の低さ 投票率」『毎日新聞』2005.10.24。

(21) 限定的な分析であるが、藤井浩司「小選挙区制と『補欠選挙』の意味」『国会月報』42巻554号、1995.2、pp.14-17。が補選の投票率について論じている。

(22) 総選挙または通常選挙と同日に行われる補欠選挙は投票率が高くなる。その影響を排除して補選のみの投票率を算出するために、同日選となった選挙を除いた数字を()内に記した。

統一前後で投票率を比較すると、統一前が49.30%、統一後が44.29%である。これも詳細な分析が必要であるが、ここで見る限り、補選の統一が投票率の向上に結びついているとは言い難い。

なお、過去最高の投票率は昭和25年10月30日執行の衆院新潟2区再選挙の97.32%である。以下、昭和29年2月15日執行の衆院鹿児島奄美群島区（復帰選挙）の85.93%、同年4月30日執行の同選挙の再選挙の82.69%と続く。再選挙及び復帰選挙を除く補欠選挙に限った最高投票率は昭和57年11月14日執行の参院沖縄選挙区補選の81.09%となっている。

過去最低の投票率は昭和21年6月24日執行の衆院東京2区再選挙の9.4%である。再選挙を除く補欠選挙に限った最低投票率は平成3年6月16日執行の参院埼玉選挙区補選の17.80%となっている。

2 主要政党の当選率

戦後、平成17年10月末までに、国政の補欠選挙及び再選挙は209件（うち再選挙7件）行われており、うち衆議院が53件（同5件）、参議院が156件（同2件）である。延べ立候補者数は827名、延べ当選者数は235名に上る⁽²³⁾。現在国会に議席を有する主要政党について、昭和30年の保守合同以降の結果を見ると、以下の表の通りとなる。

表から明らかなように、自民党の当選率の高さが目立つ結果となっている。この表では、各党の推薦や無所属当選後の入党は考慮していないので、それらを含めて考えると自民党の当選率はさらに高いものとなる。それに対して他の政党の当選率は押し並べて低い。社民党及びその前身の社会党は、当選者が複数の選挙では当選率53.8%であったが、当選者数が1名の選挙では苦戦している。民主党は、補選の統一前は同党が強い地盤とされる選挙区での補選が多かったこともあり11名中5名が当選しているが、統一後は16名中2名の当選に留まり、苦戦が続いている。この結果を受けて、新聞報道では統一補選での自民党の強さと民主党の弱さが指摘されることが多い⁽²⁵⁾。

しかし、補選の時期を統一したことが自民党に有利に働いていると断ずるのは早計であろう。この表からわかる通り自民党の補欠選挙での強さは一貫したものである。また、首相の意向で時期を選んで行うことのできる衆院選に比べて、時期を選ばず定期的に行われる参院選の方が自民党は苦戦することが多い、と言われていることを考えれば、半年に1回定期的に行われる統一補選も自民党に有利とは言い難い。むしろ、注目すべきは補選の統一（平成12年10月～）と時期をほぼ同じくして公明党との連立（平成11年10月～）を行っている点であろう。連立に伴う

	保守合同以降全補選（166件）			当選者数1名の補選（151件）			統一後の補選（24件）		
	立候補者	当選者	当選率	立候補者	当選者	当選率	立候補者	当選者	当選率
自民党	161名	132名	82.0%	136名	112名	82.4%	20名	16名	80.0%
民主党	27名	7名	25.9%	27名	7名	25.9%	16名	2名	12.5%
公明党	6名	1名	16.7%	4名	0名	0.0%	0名	0名	—
共産党	149名	2名	1.3%	136名	2名	1.5%	22名	0名	0.0%
社民党 ⁽²⁴⁾	109名	18名	16.5%	96名	11名	11.5%	2名	0名	0.0%

⁽²³⁾ 昭和29年の参議院全国区再選挙（立候補者数177名、当選者数6名）は除く。表中の数字も同再選挙を除いた数字である。ただし、件数には含めている。

⁽²⁴⁾ 昭和30年の左右合同以降の社会党を含む。

⁽²⁵⁾ 例として「永田町インサイド 政権左右 補選の妙」『日本経済新聞』2005.4.14夕刊；「解説 民主2敗 統一補選 際立つ弱さ 低投票率で無党派取り込めず」『読売新聞』2005.4.26など。なお、これらの記事では、各党の推薦や選挙後の入党も考慮されている。

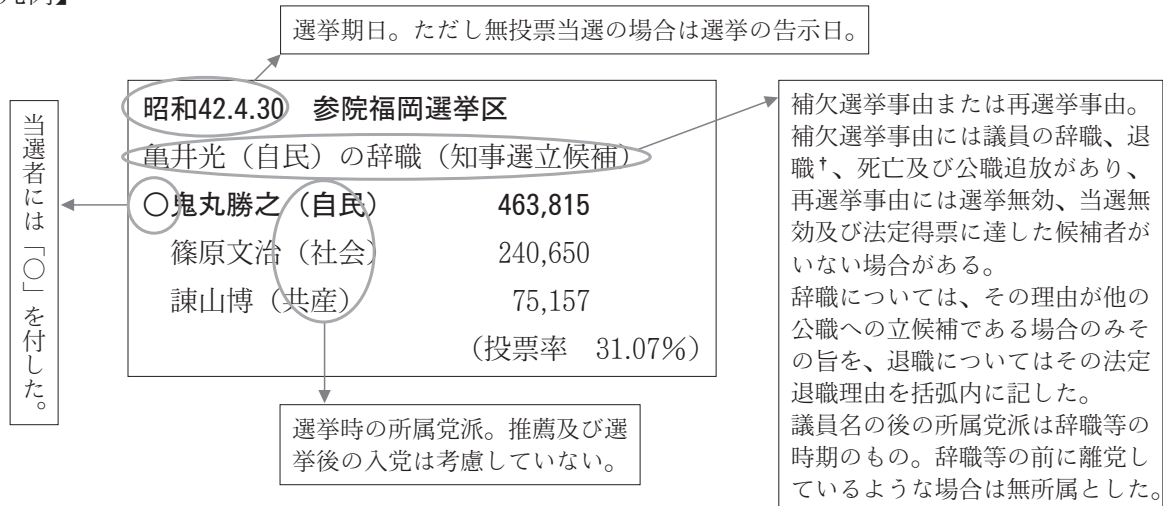
選挙協力の効果が、補選の統一による自民党にとっての不利を打ち消していると考えられることができる。

なお、資料の作成・データの校正にあたっては伊藤明子元政治議会課調査員の協力を得た。

(さとう りょう 政治議会課)

Ⅲ 補欠選挙結果一覧

【凡例】



† 「辞職」とは、国会法第107条により議員が議長に辞表を提出し、院（閉会中の場合は議長）が許可したものを指す。「退職」とは、公職選挙法第90条により他の公職に立候補した場合にその職を自動的に失ったもの及び国会法第109条により被選挙権を喪失した場合に退職者となったものを指す。

【党派名略称】

右社：日本社会党（右派）	社会：日本社会党	民主：（日本）民主党 （昭22～25,29～30）
改進黨：改進黨	社民：社会民主党	民主：民主党 （平8～）
共産：日本共産党	社連：社会民主連合	民連：民主党（連立派）
協同：協同民主党	自由：（日本）自由党 （昭20～23,25～30）	無会：無所属の会
公明：公明党	自由：自由党 （平10～15）	緑風：緑風会
国協：国民協同党	新進：新進黨	連合：連合の会
国民：国民民主党	進歩：日本進歩党	労農：労働者農民党
さき：新党さきがけ	二院：第二院クラブ	(略称の五十音順)
左社：日本社会党（左派）	民自：民主自由党	諸：その他の政党
自ク：新自由クラブ	民社：民社党	無：無所属
自民：自由民主党		

昭和21.4.10 第22回衆議院議員総選挙

昭和21.5.31 衆院福井県選挙区（再選挙）

昭和21.4.10総選挙において法定得票に達した候補
が定数より1名不足したため

○堂森芳夫（社会）	51,055
青木清左エ門（進歩）	39,068
長谷川政友（進歩）	37,333
河村仁右衛門（進歩）	21,922
福田一（自由）	20,410
中野重治（共産）	7,609
池田七郎兵衛（進歩）	4,596
畑敏秋（諸）	789
石川安左衛門（自由）	680
（投票率 48.67%）	

昭和21.6.24 衆院東京2区（再選挙）

昭和21.4.10総選挙において法定得票に達した候補
が定数より1名不足したため

○広川弘禅（自由）	41,119
山花秀雄（社会）	29,539
大町花子（共産）	20,329
原義孝（自由）	2,494
平井義一（無）	1,913
大谷美隆（諸）	1,784
山本一司（諸）	1,663
小川友三（諸）	1,202
楠山栄蔵（無）	1,049
里鄭豊（諸）	704
菅沼朝吉（協同）	678
畑敏秋（諸）	546
坪井専治郎（諸）	188
（投票率 9.4%）	

昭和22.4.20 第1回参議院議員通常選挙

昭和22.4.25 第23回衆議院議員総選挙

昭和22.8.11 参院滋賀選挙区

猪飼清六（無）の辞職

○西川甚五郎（自由）	158,546
北村久七郎（民主）	65,585
（投票率 46.37%）	

昭和22.8.15 参院栃木選挙区

殿岡利助（民主）の辞職

○岡田喜久治（民主）	126,805
雨谷義俊（社会）	37,676
新里宝三（自由）	21,592
宮下重寿（共産）	10,825
（投票率 25.51%）	

昭和22.8.15 参院群馬選挙区

竹腰徳蔵（民主）の公職追放⁽²⁶⁾

○境野清雄（民主）	177,792
野間清三（社会）	104,244
除村吉太郎（共産）	17,662
（投票率 36.99%）	

昭和22.8.15 参院徳島選挙区

岸野牧夫（無）の辞職

○紅露みつ（民主）	57,515
乾精末（自由）	56,810
近藤一（無）	11,089
（投票率 27.5%）	

昭和22.8.15 参院鹿児島選挙区

中馬猪之吉（無）、上野喜左衛門（無）の辞職

○前園喜一郎（民主）	87,095
○岡元義人（無）	80,454
岩川与助（無）	72,873
赤路友蔵（社会）	70,468
長谷場敦（無）	28,719

(26) 公職に関する就職禁止、退職等に関する勅令（昭和22年勅令第1号）に基づく覚書に該当する者とされ、公職資格を失った。

永吉勇（共産） 11,994
(投票率 42.1%)

昭和22.10.7 参院岩手選挙区

出淵勝次（無）の死亡

○川村松助（自由） 228,726
小林美代（無） 50,242
三羽嘉彦（共産） 13,911
(投票率 45.4%)

昭和22.12.19 衆院新潟1区

北■吉（自由）、石山賢吉（自由）の公職追放

○松木弘（自由） 23,439
○舟崎由之（民主） 21,885
高杉喜八（無） 14,844
風間啓吉（自由） 13,793
徳永正報（社会） 7,778
上村進（共産） 4,509
田宮準一郎（国協） 1,397
川内鉄三郎（国協） 666
(投票率 32.95%)

昭和23.1.11 参院長崎選挙区

清水武夫（社会）の死亡

○門屋盛一（民主） 133,314
福田萬作（自由） 104,593
辻文雄（社会） 51,891
塚本周三（共産） 13,944
(投票率 40.64%)

昭和23.2.5 参院長野選挙区

木下盛雄（自由）の死亡

○池田宇右衛門（自由） 184,677
宮下学（社会） 140,091
高倉テル（共産） 99,724
堀文雄（民主） 57,835
滝沢佳太（無） 13,969
(投票率 44.9%)

昭和23.2.15 参院熊本選挙区

堀内到（社会）の死亡

○城義臣（自由） 218,459
福田虎亀（民主） 215,415
坂本泰良（社会） 65,525
西里龍夫（共産） 22,278
清島辰馬（無） 9,896
久良木喜一（無） 2,701
(投票率 59.4%)

昭和23.4.4 衆院広島3区

大宮伍三郎（民主）の公職追放、原侑（自由）の辞職

○高橋禎一（民主） 60,014
○平川篤雄（国協） 57,070
松島弥（民自） 48,953
金光平（社会） 32,866
赤松徹（民自） 26,543
久保春三（諸） 16,065
野村秀雄（共産） 12,255
秋山治土（民自） 2,255
(投票率 59.72%)

昭和23.5.21 衆院宮城2区

日野吉夫（社会）の公職追放、大石倫治（民自）の死亡

○大石武一（民自） 59,068
○高橋清治郎（民主） 42,901
佐藤利雄（国協） 19,959
米倉辰治郎（社会） 16,225
宮東孝行（諸） 11,069
鈴木源次郎（社会） 9,798
加藤武雄（無） 6,151
佐藤栄三（共産） 4,584
只野直助（諸） 3,335
金本東吾（諸） 1,608
吉城千代治（無） 262
(投票率 58.59%)

昭和23.6.18 参院奈良選挙区

服部教一（無）の公職追放

○藤枝昭信(社会)	101,690
森川重一(民自)	81,219
元林義治(無)	31,705
大西元次郎(社会)	10,195
小川斉司(民主)	8,287
村田光造(無)	3,090
(投票率 54.6%)	

昭和23.11.26 衆院長崎1区

今村等(社会)の公職追放、本田英作(自由)の死亡

○坪内八郎(民自)	39,421
○岡西明貞(民自)	30,431
小柳富太郎(民主)	19,185
森徳久(諸)	16,635
木内豊昭(国協)	14,688
津田又吉(社会)	13,944
林秀一郎(無)	11,986
松尾豊喜(無)	7,227
塚元周三(共産)	6,643
(投票率 37.19%)	

昭和24.1.23 第24回衆議院議員総選挙

昭和24.6.3 参院兵庫選挙区

八木幸吉(無)の公職追放

○横尾龍(民自)	369,630
藤原忠一郎(無)	147,672
松浦清一(社会)	131,631
赤羽寿(共産)	87,664
中西勝治(民主)	35,949
高品増之助(緑風)	24,106
大岡乙松(無)	10,771
橋本善行(無)	7,512
(投票率 48.85%)	

昭和24.12.24 参院福島選挙区

松平恒雄(無)の死亡

○石原幹市郎(民自)	304,945
榊原巖(社会)	87,293
中野寅吉(諸)	76,893
山内二郎(労農)	34,833
服部実(共産)	34,196
高瀬真一(無)	18,920
(投票率 55.54%)	

昭和25.1.12 参院兵庫選挙区

原口忠次郎(社会)の辞職(市長選当選⁽²⁷⁾)

○岡崎真一(民自)	496,195
松浦清一(社会)	156,003
藤原忠一郎(無)	122,772
篠塚一雄(共産)	51,795
中西勝治(民連)	27,273
(投票率 50.61%)	

昭和25.1.17 参院福岡選挙区

橋上保(民主)の死亡

○吉田法晴(社会)	363,209
石橋健蔵(民自)	253,200
宮城孝治(諸)	238,309
高倉金一郎(共産)	74,626
松本七五(無)	60,271
(投票率 57.36%)	

昭和25.6.4 第2回参議院議員通常選挙

昭和25.10.30 衆院新潟2区(再選挙)

一部選挙無効により再選挙⁽²⁸⁾

○渡辺良夫(自由)	58,809
○玉井祐吉(労農)	32,623
○三宅正一(社会)	29,643

(27) 現在は、公職選挙法第90条において、公職の候補者となったときは国会議員を退職となる旨規定されている。しかし、当時の公選法にはその旨の規定はなく、地方自治法第141条において、首長と国会議員の兼職が禁止されていたので、立候補をもって退職とはならず、市長選での当選を待って参議院議員を辞職した。

○稲葉修（民主）	29,636
高岡忠弘（民主）	29,613
葦沢四郎（共産）	25,044
島名健（民自）	16,344
(投票率 97.32%)	

昭和25.11.3 参院茨城選挙区

柴田政次（自由）の死亡	
○宮田重文（自由）	382,512
宮代徹（社会）	196,486
(投票率 54.73%)	

昭和25.12.13 参院千葉選挙区

土屋俊三（自由）の死亡	
○片岡文重（社会）	364,415
林英一郎（自由）	356,110
(投票率 64.8%)	

昭和25.12.20 参院広島選挙区

佐々木鹿蔵（無）の死亡	
○楠瀬常猪（自由）	400,444
高津正道（社会）	362,993
(投票率 67.23%)	

昭和26.2.12 参院福島選挙区

橋本万右衛門（自由）の死亡	
○松平勇雄（自由）	386,322
田中利勝（社会）	270,923
山下春江（国民）	115,292
折笠藤雄（共産）	8,645
(投票率 76.85%)	

昭和26.4.21 参院愛媛選挙区

久松定武（諸）の辞職（知事選立候補）	
○玉柳実（無）	（無投票）

昭和26.5.16 参院大阪選挙区

中井光次（民主）、森下政一（社会）の辞職（ともに市長選立候補）	
○中山福蔵（緑風）	279,537
○溝淵春次（自由）	201,899
山口昌一（社会）	179,455
川上貫一（共産）	149,803
佐野茂（無）	8,157
小田俊与（諸）	6,127
(投票率 38.16%)	

昭和26.11.16 参院富山選挙区

尾山三郎（自由）の死亡	
○館哲二（無）	245,372
巴陵宣正（共産）	18,691
(投票率 48.15%)	

昭和27.3.12 衆院東京6区

聴涛克巳（共産）の公職追放、中島守利（民自）の死亡	
○熊本虎三（右社）	62,136
○新井京太（自由）	59,437
島上善五郎（左社）	39,216
天野頼義（自由）	35,796
林博（改進黨）	30,359
真鍋儀十（改進黨）	28,521
滝沢七郎（無）	27,645
佐久間栄吉（無）	23,609
吉田資治（共産）	15,205
赤尾敏（諸）	12,205

㊸ 昭和24.1.23衆議院総選挙で、新潟2区内の中蒲原郡七谷村における選挙が無効となり、同村のみ再選挙が行われた。上記の各候補の得票数は再選挙後の合計得票数であり、再選挙における七谷村での得票は以下の通りである。当落に変動はなかった。なお所属党派は島名健を除いて再選挙時のものである。高岡忠弘 1,251、三宅正一 1,223、葦沢四郎 4、稲葉修 1、渡辺良夫 0、玉井祐吉 0、島名健（再選挙時死亡）。

飯塚侑造（無）	4,136
小田俊与（諸）	1,121
肥後亨（諸）	286
	(投票率 42.0%)

加藤久朗（無）	125,865
小松七郎（共産）	24,108
	(投票率 40.01%)

昭和27.5.6 参院静岡選挙区

平岡市三（自由）の死亡

○石黒忠篤（緑風）	370,340
小林武治（自由）	317,005
橋本富喜良（社会）	128,556
小田俊与（諸）	23,798
	(投票率 63.8%)

昭和27.10.1 第25回衆議院議員総選挙

昭和27.10.20 参院熊本選挙区

田方進（民主）の辞職

○松野鶴平（自由）	306,502
三島誠也（改進黨）	148,182
	(投票率 47.06%)

昭和28.4.19 第26回衆議院議員総選挙

昭和28.4.24 第3回参議院議員通常選挙

昭和28.7.30 参院青森選挙区

工藤鉄男（自由）の死亡

○笹森順造（改進黨）	204,289
大沢喜代一（共産）	33,446
	(投票率 35.59%)

昭和29.1.20 参院千葉選挙区

加納金助（自由）の死亡

○伊納繁次郎（自由）	192,377
加藤閔男（社会）	132,471

◆奄美群島復帰に伴う選挙⁽²⁹⁾

昭和29.2.15 衆院鹿児島奄美群島区

宗前清（自由）	18,741
泉芳朗（右社）	15,763
保岡武久（自由）	14,565
金井正夫（無）	12,341
伊東隆治（改進黨）	11,593
西田当元（無）	8,675
山元亀次郎（無）	6,126
中村安太郎（諸）	2,758
	(投票率 85.93%)

(法定得票に達した候補者がなく再選挙)

昭和29.4.30 衆院鹿児島奄美群島区（再選挙）

○保岡武久（自由）	24,956
伊東隆治（改進黨）	20,706
宗前清（自由）	20,176
泉芳朗（右社）	17,874
中村安太郎（諸）	6,080
	(投票率 82.69%)

昭和29.6.3 参院和歌山選挙区

徳川頼貞（自民）の死亡

○野村吉三郎（無）	254,123
鈴木嘉八郎（無）	128,851
	(投票率 66.09%)

昭和29.10.17 参院全国区（再選挙）

一部選挙無効による再選挙⁽³⁰⁾

(投票率 78.26%)

(29) 「奄美群島の復帰に伴う法令の暫定措置等に関する法律（昭和28年法律第267号）」による選挙。

昭和30.2.27 第27回衆議院議員総選挙

昭和30.3.10 参院福井選挙区

堂森芳夫(右社)の辞職(衆院選立候補)

○小幡治和(無)	191,186
宝鏡晃(民主)	84,385
(投票率 64.32%)	

昭和30.3.17 参院福岡選挙区

団伊能(民主)の辞職(衆院選立候補)

○山本経勝(左社)	413,160
宮城孝治(無)	343,453
(投票率 37.53%)	

昭和30.5.15 参院新潟選挙区

北村一男(自由)の退職(知事選立候補)

○小柳牧衛(民主)	230,093
武内五郎(左社)	218,137
野坂相如(無)	180,110
(投票率 46.58%)	

昭和30.6.5 参院埼玉選挙区

松永義雄(右社)の死亡

○遠藤柳作(無)	136,105
原虎一(右社)	133,823
武正総一郎(無)	67,355
(投票率 27.63%)	

昭和30.8.7 参院三重選挙区

前田穰(緑風)の死亡

○斎藤昇(無)	218,750
西村勝(左社)	133,921
(投票率 40.81%)	

昭和30.11.11 参院島根選挙区

大達茂雄(自由)の死亡

○佐野広(無)	252,443
加藤一郎(共産)	41,552
国沢徳五郎(無)	34,651
(投票率 63.15%)	

昭和31.1.15 参院京都選挙区

大山郁夫(無)の死亡

○小西英雄(自民)	135,398
藤田藤太郎(社会)	132,013
竹中恒三郎(共産)	37,171
嶋崎栄治(無)	15,500
(投票率 27.49%)	

昭和31.4.4 参院鳥取選挙区

三好英之(自民)の死亡

○中田吉雄(社会)	127,509
坂口平兵衛(自民)	118,247
裏坂憲一(共産)	6,178
(投票率 71.83%)	

昭和31.7.8 第4回参議院議員通常選挙

昭和31.11.22 衆院福岡1区

緒方竹虎(自民)、熊谷憲一(自民)の死亡

○簡牛九夫(自民)	82,720
○中島茂喜(自民)	80,619
長正路(社会)	64,882
中野泰雄(無)	42,152
星野力(共産)	7,514
(投票率 48.48%)	

30) 昭和28.4.24参議院通常選挙で、栃木県佐野市における選挙が無効となり、53名の当選者(うち3名が任期3年)のうち、佐野市での得票によっては落選または任期の短縮となる可能性のある下位6名の当選を無効とした。再選挙は、前回の立候補者のうち当選した47名と再立候補しなかった10名を除く177名が立候補して行われた。各候補者の得票数等は参議院事務局編『第3回参議院議員選挙一覧』1955, pp.229-245を参照されたい。

昭和31.11.30 参院鹿児島選挙区

重成格(自民)の死亡

○田中茂穂(自民)	387,782
村田実(社会)	201,212
仮屋まさか(共産)	36,583
	(投票率 56.11%)

八木徹雄(自民)	45,094
元岡稔(共産)	2,151
肥後亨(諸)	399
	(投票率 76.38%)

昭和32.4.23 参院大阪選挙区

森下政一(社会)の死亡

○大川光三(自民)	277,903
村尾重雄(社会)	276,064
中尾辰義(無)	170,497
ふるた覚成(無)	56,173
山田六左衛門(共産)	49,624
別城イー(無)	7,962
小田としよ(諸)	7,574
河内金次郎(無)	5,052
	(投票率 32.03%)

昭和33.5.22 第28回衆議院議員総選挙

昭和33.6.22 参院秋田選挙区

鈴木一(社会)の退職(衆院選立候補)

○松野孝一(自民)	183,651
内藤良平(社会)	169,064
鈴木義雄(共産)	24,942
	(投票率 50.31%)

昭和32.6.28 参院香川選挙区

白川一雄(自民)の死亡

○増原恵吉(自民)	162,205
森崎隆(社会)	158,563
肥後亨(諸)	1,583
	(投票率 57.64%)

昭和33.7.6 参院島根選挙区

小滝彬(自民)の死亡

○山本利寿(自民)	243,212
神門至馬夫(社会)	143,152
	(投票率 72.50%)

昭和32.9.3 衆院福島1区(再選挙)

鈴木周次郎(自民)の当選無効(公選法違反)

○小松信太郎(社会)	137,213
鈴木周次郎(自民)	95,507
遠藤雄蔵(共産)	4,902
	(投票率 68.25%)

昭和33.8.24 参院福岡選挙区

山本経勝(社会)の死亡

○小柳勇(社会)	559,417
小林喜利(自民)	480,733
	(投票率 48.08%)

昭和33.2.9 衆院愛媛2区

越智茂(自民)、砂田重政(自民)の死亡

○羽藤栄市(社会)	73,519
○井原岸高(自民)	66,971
村瀬宣親(自民)	57,018

昭和33.12.7 参院石川選挙区

井村徳二(自民)の死亡

○柴野和喜夫(無)	136,052
神戸世志夫(社会)	114,587
	(投票率 43.06%)

昭和34.4.30 参院大阪選挙区

左藤義詮(自民)の退職(知事選立候補)

○大川光三(自民)	654,094
松原喜之次(社会)	452,503
山田六左衛門(共産)	118,227

(投票率 43.40%)

昭和34.5.16 衆院北海道1区

町村金五(自民)の退職、横路節雄(社会)の辞職
(ともに知事選立候補)

○横路節雄(社会)	160,215
○高田富与(自民)	133,632
西館仁(共産)	4,869
肥後亨(諸)	565
(投票率 48.08%)	

昭和34.6.2 第5回参議院議員通常選挙

昭和34.7.24 参院山形選挙区

松沢靖介(社会)の死亡

○白井勇(自民)	255,699
真壁仁(社会)	208,493
小田俊与(諸)	5,985
道山虎夫(無)	3,734
肥後亨(諸)	1,928
(投票率 60.81%)	

昭和34.8.20 参院兵庫選挙区

成田一郎(自民)の死亡

○岸田幸雄(自民)	406,496
佐々木武千代(社会)	185,730
小田俊与(諸)	16,309
肥後亨(諸)	4,242
(投票率 26.99%)	

昭和35.5.18 参院熊本選挙区

桜井三郎(自民)の死亡

○野上進(自民)	294,589
吉田安(自民)	136,406
松岡明(社会)	127,104
肥後亨(無)	10,784
田代安喜(共産)	7,611

道山虎夫(諸)

967

(投票率 55.17%)

昭和35.11.20 第29回衆議院議員総選挙

昭和35.11.20 参院埼玉選挙区

大沢雄一(自民)の辞職(衆院選立候補)

○大泉寛三(自民)	544,684
瀬谷英行(社会)	358,437
(投票率 68.86%)	

昭和35.12.1 参院千葉選挙区

伊能繁次郎(自民)の辞職(衆院選立候補)

○木島義夫(自民)	285,092
羽仁説子(無)	197,421
小松七郎(共産)	27,465
肥後亨(無)	6,964
(投票率 38.21%)	

昭和36.12.10 参院宮崎選挙区

二見甚郷(自民)の辞職

○温水三郎(自民)	204,146
松浦利尚(社会)	110,549
河野孔明(無)	39,892
畑中せつみ(共産)	11,083
(投票率 57.89%)	

昭和37.7.1 第6回参議院議員通常選挙

昭和37.11.30 参院熊本選挙区

松野鶴平(自民)の死亡

○沢田一精(自民)	249,677
森中守義(社会)	216,546
吉田安(無)	92,512
田代安喜(共産)	11,179
(投票率 54.24%)	

昭和38.1.29 参院熊本選挙区

園木登(自民)の死亡

○北口龍徳(自民)	494,767
潮永健一(民社)	131,249
	(投票率 70.10%)

昭和38.4.6 参院栃木選挙区

湯沢三千男(自民)の死亡

○坪山徳弥(自民)	252,047
萩原武(社会)	142,630
	(投票率 45.18%)

昭和38.4.9 参院福岡選挙区

吉田法晴(社会)の退職(市長選立候補)

○小宮市太郎(社会)	496,706
安部正(無)	87,744
栗山清志(諸)	79,317
	(投票率 29.70%)

昭和38.9.18 参院茨城選挙区

武藤常介(自民)の死亡

○鈴木一司(自民)	214,653
川村衛(無)	160,613
高儀満威(社会)	109,882
大塚正(共産)	18,015
藤木平次(諸)	1,108
	(投票率 40.92%)

昭和38.10.28 参院愛知選挙区

杉浦武雄(自民)の死亡

○八木一郎(自民)	471,999
飯島幹雄(社会)	307,017
青山雅彦(無)	28,418
高橋円大(諸)	6,282
	(投票率 30.51%)

昭和38.12.10 参院京都選挙区

永末英一(社会)の辞職(衆院選立候補)

○植木光教(自民)	165,742
榎本貴志雄(社会)	110,704
河田賢治(共産)	79,138
佐野博明(諸)	1,320
	(投票率 27.18%)

昭和39.6.21 参院和歌山選挙区

野村吉三郎(自民)の死亡

○和田鶴一(自民)	163,920
山下正子(社会)	127,430
藤沢弘太郎(共産)	13,342
	(投票率 47.79%)

昭和39.11.16 衆院千葉2区

寺島隆太郎(自民)、山村新治郎(自民)の死亡

○山村新治郎(自民)	68,124
○小川三男(社会)	37,572
水野清(無)	23,792
山崎健二(無)	21,634
岡田敏夫(民社)	21,559
鎌形剛(無)	8,771
佐藤二郎(共産)	3,287
	(投票率 55.88%)

昭和39.12.9 参院岡山選挙区

秋山長造(社会)、加藤武徳(自民)の退職(ともに知事選立候補)

○秋山長造(社会)	245,672
○木村睦男(無)	154,513
伊藤大孝(自民)	131,359
林郁男(共産)	13,582
	(投票率 51.63%)

昭和39.12.27 衆院岐阜1区

大野伴睦(自民)、三田村武夫(自民)の死亡

○大野明(自民)	110,029
----------	---------

昭和38.11.21 第30回衆議院議員総選挙

○高橋重信 (社会)	76,033
武藤嘉文 (無)	74,204
木村公平 (無)	52,129
真野昭一 (民社)	10,458
島田貞男 (共産)	6,696
	(投票率 53.98%)

昭和40.4.11 参院宮城選挙区

高橋進太郎 (自民) の退職 (知事選立候補)

○高橋文五郎 (自民)	256,658
戸田菊雄 (社会)	143,145
引地金治郎 (民社)	33,367
阿部伝 (共産)	16,140
	(投票率 43.19%)

嶋崎栄治 (無)	6,987
	(投票率 34.73%)

昭和41.11.5 参院愛知選挙区

草葉隆円 (自民) の死亡

○横井太郎 (自民)	380,158
小山良治 (社会)	336,847
加藤正見 (民社)	140,456
浅井美雄 (共産)	56,065
桜本タマ子 (無)	51,032
西脇正治 (無)	39,849
榊原守 (無)	23,208
高田がん (諸)	10,033
	(投票率 34.90%)

昭和40.7.4 第7回参議院議員通常選挙

昭和40.7.18 参院熊本選挙区

北口龍徳 (自民) の死亡

○園田清充 (自民)	304,641
大中康雄 (社会)	159,623
福永毅 (共産)	12,656
	(投票率 46.37%)

昭和42.1.29 第31回衆議院議員総選挙

昭和42.2.12 参院神奈川選挙区

曾祢益 (民社) の退職 (衆院選立候補)

○佐藤一郎 (自民)	318,002
片岡勝治 (社会)	304,392
中路雅弘 (共産)	58,313
山岸梅茂 (無)	14,686
	(投票率 23.06%)

昭和41.1.30 参院広島選挙区

岩沢忠恭 (自民) の死亡

○中津井真 (自民)	266,782
福岡義登 (社会)	199,337
徳義三男 (無)	162,314
村上経行 (共産)	44,080
	(投票率 46.63%)

昭和42.4.30 参院福岡選挙区

亀井光 (自民) の退職 (知事選立候補)

○鬼丸勝之 (自民)	463,815
篠原文治 (社会)	240,650
諫山博 (共産)	75,157
	(投票率 31.07%)

昭和41.4.27 参院京都選挙区

大野木秀次郎 (自民) の死亡

○林田悠紀夫 (自民)	219,675
小倉治一郎 (社会)	133,570
河田賢治 (共産)	110,698
高田巖 (諸)	7,083

昭和42.6.25 参院滋賀選挙区

西川甚五郎 (自民) の死亡

○西村関一 (社会)	115,344
野崎貫一 (自民)	102,753
江畑寅次郎 (無)	20,550
古武家昇平 (共産)	13,395

(投票率 46.22%)

昭和42.8.20 参院群馬選挙区

木暮武太夫(自民)の死亡

○佐田一郎(自民)	291,042
茜ヶ久保重光(社会)	193,756
宮沢忠夫(共産)	26,481
高田巖(諸)	5,908
(投票率 51.17%)	

昭和42.9.15 参院秋田選挙区

松野孝一(自民)の死亡

○沢田政治(社会)	190,574
谷藤征得(自民)	188,824
佐藤広一(民社)	46,042
小川俊三(共産)	33,178
(投票率 58.94%)	

昭和42.11.5 参院千葉選挙区

小沢久太郎(自民)の死亡

○菅野儀作(自民)	290,988
加瀬包男(社会)	112,715
小松七郎(共産)	59,507
長谷長次(無)	20,440
(投票率 25.89%)	

昭和42.11.5 参院新潟選挙区

佐藤芳男(自民)の死亡

○佐藤隆(自民)	452,503
松井誠(社会)	405,210
寺島泰治(共産)	34,526
(投票率 59.86%)	

昭和43.5.12 衆院鹿児島奄美群島区⁽³¹⁾

伊東隆治(自民)の死亡

○保岡武久(無)	29,404
豊永光(無)	26,593
笠井純一(自民)	24,167
橋口護(共産)	2,974
(投票率 81.44%)	

昭和43.6.9 参院岩手選挙区

谷村貞治(自民)の死亡

○岩動道行(自民)	236,320
千葉七郎(社会)	215,630
昆貞(無)	41,558
宮脇嘉一(共産)	19,685
伊藤幸太郎(無)	6,398
(投票率 59.92%)	

昭和43.7.7 第8回参議院議員通常選挙

昭和44.12.27 第32回衆議院議員総選挙

昭和45.3.15 参院長崎選挙区

久保勘一(自民)の退職(知事選立候補)

○初村滝一郎(自民)	215,717
吉永正人(社会)	164,816
益本和夫(共産)	14,450
(投票率 40.54%)	

昭和45.11.1 参院山梨選挙区

吉江勝保(自民)の死亡

○星野重次(自民)	136,960
神沢浄(社会)	127,750
三森信(共産)	22,188
(投票率 56.17%)	

◆沖縄復帰に伴う衆議院選挙⁽³²⁾

昭和45.11.15 衆院沖縄全県区

(31) 奄美群島区は定数が1名であるため、公職選挙法第113条第1項第1号の規定にかかわらず、同法施行令第146条の規定により、欠員が1名生じた時点で補欠選挙が行われた。

○西銘順治 (自民)	92,596
○瀬長亀次郎 (諸)	76,978
○上原康助 (社会)	73,331
○国場幸昌 (自民)	65,104
○安里積千代 (諸)	53,998
友利栄吉 (公明)	44,870
山川泰邦 (自民)	34,641
(投票率 83.64%)	

○近藤鉄雄 (自民)	131,493
○黒金泰美 (自民)	112,268
渡辺三郎 (社会)	78,060
島津昭 (共産)	13,833
大場宗蔵 (無)	8,998
鈴木武 (無)	1,748
建部憲市 (無)	1,549
前田律 (無)	937
(投票率 75.26%)	

◆沖縄復帰に伴う参議院選挙

昭和45.11.15 参院沖縄選挙区

○喜屋武真栄 (無)	212,929
○稻嶺一郎 (自民)	194,510
下里恵良 (無)	20,264
(投票率 83.63%)	

昭和46.2.7 参院石川選挙区

任田新治 (自民) の死亡

○嶋崎均 (自民)	242,434
森昭 (共産)	58,713
松上二郎 (無)	19,130
(投票率 50.02%)	

昭和46.6.27 第9回参議院議員通常選挙

昭和47.2.6 参院茨城選挙区

中村喜四郎 (自民) の死亡

○中村登美 (諸)	293,584
矢田部理 (社会)	221,104
山口武平 (自民)	125,570
石井健二 (共産)	18,308
(投票率 44.70%)	

昭和47.9.23 衆院山形1区

堀田政孝 (自民)、華山親義 (社会) の死亡

昭和47.10.8 衆院愛媛2区

八木徹雄 (自民)、村上信二郎 (自民) の死亡

○越智伊平 (自民)	86,816
○井原岸高 (自民)	82,054
村上豊司 (無)	36,737
秋川保親 (共産)	26,731
(投票率 62.59%)	

昭和47.10.22 参院三重選挙区

斎藤昇 (自民) の死亡

○斎藤十朗 (自民)	326,569
静永俊雄 (社会)	117,268
中川政一 (共産)	54,246
(投票率 45.98%)	

昭和47.11.5 参院兵庫選挙区

佐野芳雄 (社会) の死亡

○中西一郎 (自民)	523,269
矢原秀男 (公明)	300,594
松尾唯男 (社会)	283,204
安武洋子 (共産)	195,990
(投票率 39.87%)	

昭和47.12.10 第33回衆議院議員総選挙

32) 同日の参院選とともに「沖縄住民の国政参加特別措置法(昭和45年法律第49号)」による選挙。なお、沖縄の復帰は昭和47年5月15日である。

昭和47.12.10 参院静岡選挙区

栗原祐幸(自民)の辞職(衆院選立候補)

○斎藤寿夫(自民)	821,761
青木薪次(社会)	495,968
山田洋(共産)	189,994
小田俊与(無)	75,326
(投票率 77.79%)	

昭和47.12.17 参院新潟選挙区

松井誠(社会)の死亡

○君健男(自民)	507,180
志苦裕(社会)	325,620
浦沢与三郎(共産)	61,793
佐藤助次郎(無)	14,358
(投票率 56.88%)	

昭和48.6.17 参院青森選挙区

津島文治(自民)の死亡

○寺下岩蔵(自民)	180,602
木立芳照(社会)	119,263
木村昭四郎(共産)	63,282
森田哲郎(無)	55,554
古川忠次郎(無)	29,079
(投票率 46.32%)	

昭和48.6.17 参院大阪選挙区

赤間文三(自民)の死亡

○沓脱タケ子(共産)	700,230
森下泰(自民)	686,307
亀田得治(社会)	411,205
岩見豊明(民社)	191,478
西井勝(無)	9,913
高田巖(諸)	6,393
柴田隆司(無)	5,452
(投票率 37.47%)	

昭和48.12.23 衆院福岡3区

荒木万寿夫(自民)、榑橋渡(自民)の死亡

○鬼木勝利(公明)	95,333
○榑橋進(自民)	80,862
待鳥恵(社会)	68,611
古賀治(自民)	54,904
松倉三郎(共産)	32,734
江上辰之助(無)	31,692
高原佐久馬(無)	15,231
原田敏明(無)	6,356
(投票率 66.10%)	

昭和49.1.27 参院香川選挙区

平井太郎(自民)の死亡

○平井卓志(自民)	209,522
谷上典之(社会)	118,490
石田千年(共産)	62,257
高田巖(諸)	2,368
(投票率 59.35%)	

昭和49.4.21 参院京都選挙区

大橋和孝(社会)の退職(知事選立候補)

○小川半次(自民)	290,514
藤原広子(共産)	261,690
竹内勝彦(公明)	147,535
竹村昭(社会)	82,322
(投票率 46.84%)	

昭和49.5.12 参院高知選挙区

浜田幸雄(自民)の死亡

○林道(自民)	193,278
藤原周(社会)	138,228
平石磨作太郎(公明)	66,637
高田巖(諸)	3,537
(投票率 68.72%)	

昭和49.7.7 第10回参議院議員通常選挙

昭和49.12.8 参院栃木選挙区

船田讓(自民)の辞職(知事選立候補)

○矢野登 (自民)	387,295
三ッ屋政夫 (社会)	177,947
大阿久照代 (共産)	37,965
高田巖 (諸)	9,457
(投票率 54.21%)	

昭和50.4.27 参院茨城選挙区

竹内藤男 (自民) の辞職 (知事選立候補)

○郡祐一 (自民)	567,927
高杉廸忠 (社会)	235,769
富沢久雄 (共産)	69,874
(投票率 57.03%)	

昭和50.4.27 参院愛知選挙区

須原昭二 (社会) の死亡

○福井勇 (自民)	721,706
渋谷邦彦 (公明)	544,940
井上計 (民社)	385,667
小山良治 (社会)	356,973
浅井美雄 (共産)	226,689
藤村茂八 (諸)	6,410
(投票率 58.77%)	

昭和50.9.21 参院鹿児島選挙区

柴立芳文 (自民) の死亡

○佐多宗二 (自民)	390,303
今村勝美 (社会)	195,201
中間浩一郎 (共産)	40,162
(投票率 52.85%)	

昭和51.5.23 参院秋田選挙区

山崎五郎 (自民) の死亡

○佐々木満 (自民)	287,187
穂積惇 (社会)	210,262
小林泰夫 (共産)	82,612
(投票率 66.21%)	

昭和51.9.26 参院奈良選挙区

大森久司 (自民) の死亡

○堀内俊夫 (自民)	191,041
笹田治人 (社会)	99,006
岩田良孝 (共産)	45,990
(投票率 45.85%)	

昭和51.9.26 参院大分選挙区

岩男頼一 (自民) の死亡

○後藤正夫 (諸)	277,541
斎藤光寿 (社会)	264,553
浜田紘一 (共産)	30,686
(投票率 68.50%)	

昭和51.12.5 第34回衆議院議員総選挙

昭和51.12.12 参院新潟選挙区

佐藤隆 (自民) の辞職 (衆院選立候補)

○塚田十一郎 (自民)	508,001
吉田正雄 (社会)	339,083
伊藤千穂 (共産)	56,013
(投票率 54.41%)	

昭和51.12.12 参院宮崎選挙区

温水三郎 (自民) の死亡

○坂元親男 (諸)	201,289
松形祐堯 (自民)	147,039
清水秀夫 (社会)	127,195
佐藤誠 (共産)	12,422
河野孔明 (諸)	8,453
(投票率 65.60%)	

昭和52.5.22 参院新潟選挙区

亘四郎 (自民) の死亡

○長谷川信 (自民)	380,592
吉田正雄 (社会)	259,513
丸山久明 (共産)	55,621
高田がん (無)	15,553

(投票率 42.89%)

昭和52.7.10 第11回参議院議員通常選挙**昭和52.9.4 参院熊本選挙区**

高田浩運(自民)の死亡

○田代由紀男(自民)	351,335
森中守義(社会)	290,653
粟田一哉(共産)	17,427
高田巖(無)	6,887
(投票率 54.86%)	

昭和53.2.5 参院茨城選挙区

岩上妙子(自民)の辞職

○岩上二郎(自民)	339,973
石川達男(自ク)	127,110
海野幹雄(共産)	48,786
高田巖(無)	5,610
(投票率 31.37%)	

昭和53.2.19 参院和歌山選挙区

前田佳都男(自民)の死亡

○前田勲男(自民)	212,598
山崎政彦(社会)	64,217
井上敦(共産)	57,355
(投票率 44.39%)	

昭和53.4.23 参院京都選挙区

林田悠紀夫(自民)の退職(知事選立候補)

○上田稔(自民)	346,453
梅田勝(共産)	238,409
榊田博(諸)	112,185
(投票率 40.69%)	

昭和54.1.14 衆院京都2区

山田芳治(社会)の退職(知事選立候補)、玉置一徳(民社)の死亡

○谷垣専一(自民)	170,756
○玉置一弥(民社)	133,232
有田光雄(共産)	123,362
山田芳治(社会)	83,545
東出忠泰(社連)	7,272
伊瀬満(諸)	794
(投票率 49.26%)	

昭和54.4.22 参院熊本選挙区

三善信二(自民)の死亡

○三浦八水(自民)	524,595
魚返正臣(社会)	224,424
粟田一哉(共産)	76,837
(投票率 71.51%)	

昭和54.10.7 第35回衆議院議員総選挙**昭和55.6.1 参院青森選挙区**

寺下岩蔵(自民)の死亡

○松尾官平(自民)	239,087
佐川礼三郎(諸)	129,457
富士克郎(共産)	43,325
(投票率 39.16%)	

昭和55.6.22 第36回衆議院議員総選挙**昭和55.6.22 第12回参議院議員通常選挙****昭和56.2.1 参院岐阜選挙区**

藤井丙午(自民)の死亡

○藤井孝男(自民)	414,753
中村波男(社会)	299,336
市川英昭(共産)	35,672
(投票率 55.88%)	

昭和56.3.8 参院千葉選挙区

菅野儀作(自民)の死亡

○臼井莊一(自民)	361,450
-----------	---------

糸久八重子 (社会)	277,388
小島孝之 (民社)	150,670
前田堅一郎 (共産)	82,755
高田巖 (無)	13,116
	(投票率 27.96%)

仲本安一 (諸)	191,436
宮里松正 (諸)	137,806
	(投票率 81.09%)

昭和56.6.28 参院岐阜選挙区

浅野拡 (自民) の死亡

○杉山令肇 (自民)	351,394
高橋寛 (社会)	141,414
杉原恭三 (共産)	53,979
	(投票率 40.73%)

昭和57.12.26 参院富山選挙区

吉田実 (自民) の死亡

○沖外夫 (自民)	283,001
吉田力 (無)	118,643
安田修三 (社会)	111,023
反保直樹 (共産)	14,483
	(投票率 66.48%)

昭和56.11.1 参院鳥取選挙区

石破二郎 (自民) の死亡

○小林国司 (自民)	166,839
新見修 (社会)	113,480
保田睦美 (共産)	14,551
	(投票率 67.45%)

昭和58.2.13 参院栃木選挙区

戸叶武 (社会) の死亡

○上野雄文 (社会)	194,151
河上幸一 (自民)	147,004
蓮実進 (無)	120,350
小菅昭三 (共産)	14,647
	(投票率 37.58%)

昭和56.11.29 参院広島選挙区

永野巖雄 (自民) の死亡

○宮沢弘 (自民)	611,452
浜本万三 (社会)	215,675
森脇勝義 (共産)	53,998
	(投票率 46.20%)

昭和58.6.26 第13回参議院議員通常選挙

昭和58.8.7 衆院京都2区

前尾繁三郎 (自民)、谷垣専一 (自民) の死亡

○谷垣禎一 (自民)	125,209
○野中広務 (自民)	121,890
有田光雄 (共産)	115,093
山中末治 (社会)	73,226
林長禎 (無)	32,766
高田巖 (無)	1,417
心久 (無)	724
	(投票率 41.37%)

昭和57.1.10 参院佐賀選挙区

鍋島直紹 (自民) の死亡

○大坪健一郎 (自民)	246,324
緒方克陽 (社会)	86,192
平林正勝 (共産)	15,025
山瀬徹 (諸)	9,134
	(投票率 58.72%)

昭和58.12.18 第37回衆議院議員総選挙

昭和57.11.14 参院沖縄選挙区

喜屋武真栄 (二院) の辞職 (知事選立候補)

○大城真順 (自民)	253,895
------------	---------

昭和58.12.18 参院静岡選挙区

戸塚進也 (自民) の退職 (衆院選立候補)

○藤田栄 (自民)	1,099,675
-----------	-----------

山田洋 (共産)	595,424
	(投票率 73.44%)

昭和60.2.3 参院奈良選挙区

新谷寅三郎 (自民) の死亡

○服部安司 (自民)	216,579
川本敏美 (社会)	100,195
北野加那子 (共産)	59,116
	(投票率 42.54%)

昭和60.2.17 参院福島選挙区

村田秀三 (社会) の死亡

○添田増太郎 (自民)	397,740
宍戸利夫 (社会)	293,404
阿部裕美子 (共産)	98,269
	(投票率 53.77%)

昭和60.10.20 参院熊本選挙区

園田清充 (自民) の死亡

○守住有信 (自民)	303,442
中原利丸 (無)	281,829
竹島勇 (社会)	90,945
粟田一哉 (共産)	22,738
	(投票率 53.45%)

昭和61.7.6 第38回衆議院議員総選挙

昭和61.7.6 第14回参議院議員通常選挙

昭和61.8.10 参院佐賀選挙区

大坪健一郎 (自民) の辞職 (衆院選立候補)

○三池信 (自民)	130,575
占野秀男 (社会)	98,504
関家敏正 (共産)	13,864
	(投票率 39.23%)

昭和62.3.8 参院岩手選挙区

岩動道行 (自民) の死亡

○小川仁一 (社会)	421,432
岩動麗 (自民)	197,863
牛山靖夫 (共産)	31,949
心久 (無)	8,065
	(投票率 63.62%)

昭和62.7.12 参院山口選挙区

江島淳 (自民) の死亡

○二木秀夫 (自民)	304,000
田川章次 (共産)	107,765
	(投票率 36.04%)

昭和62.11.1 参院神奈川選挙区

服部信吾 (公明) の死亡

○佐藤謙一郎 (自民)	483,582
諸星充司 (社会)	365,517
斉藤淑子 (共産)	190,989
重松九州男 (諸)	10,563
	(投票率 19.40%)

昭和62.12.27 参院大阪選挙区

森下泰 (自民) の死亡

○坪井一宇 (自民)	492,784
吉井英勝 (共産)	396,537
谷畑孝 (社会)	372,950
	(投票率 20.70%)

昭和63.2.28 参院大阪選挙区

田代富士男 (無) の辞職

○吉井英勝 (共産)	455,064
東武 (自民)	425,740
谷畑孝 (社会)	378,067
小林義昌 (諸)	22,133
	(投票率 20.92%)

昭和63.4.10 参院佐賀選挙区

三池信 (自民) の死亡

○陣内孝雄（自民）	185,629
田中喜久子（社会）	119,323
平林正勝（共産）	27,657
	（投票率 53.08%）

昭和63.9.4 参院福島選挙区

佐藤栄佐久（自民）の辞職（知事選立候補）

○石原健太郎（自民）	702,940
志賀一夫（社会）	312,203
阿部裕美子（共産）	186,503
	（投票率 80.75%）

平成1.2.12 参院福岡選挙区

福田幸弘（自民）の死亡

○瀧上貞雄（社会）	751,036
合馬敬（自民）	564,301
藤野達善（共産）	170,778
前田宏三（諸）	160,294
	（投票率 48.61%）

平成1.6.25 参院新潟選挙区

志苦裕（社会）の退職（知事選立候補）

○大瀧絹子（社会）	560,275
君英夫（自民）	482,391
村田一男（共産）	47,174
	（投票率 60.73%）

平成1.7.23 第15回参議院議員通常選挙

平成1.10.1 参院茨城選挙区

岩上二郎（自民）の死亡

○野村五男（自民）	467,643
細金志づ江（社会）	394,123
山田節夫（共産）	52,642
	（投票率 45.59%）

平成2.2.18 第39回衆議院議員総選挙

平成2.6.10 参院福岡選挙区

小野明（社会）の死亡

○三重野栄子（社会）	869,036
住吉徳彦（自民）	748,317
	（投票率 47.01%）

平成2.11.4 参院愛知選挙区

高木健太郎（公明）の死亡

○大島慶久（自民）	833,371
後藤みち子（社会）	793,030
瀬古由起子（共産）	210,785
	（投票率 38.70%）

平成2.12.9 参院新潟選挙区

長谷川信（自民）の死亡

○真島一男（自民）	501,721
桜井久雄（社会）	343,534
村田一男（共産）	54,933
	（投票率 49.33%）

平成3.2.24 参院青森選挙区

山崎竜男（自民）の退職（知事選立候補）

○松尾官平（諸）	240,129
久保晴一（諸）	197,598
高橋千鶴子（共産）	42,454
	（投票率 43.02%）

平成3.6.16 参院埼玉選挙区

名尾良孝（自民）の死亡

○関根則之（自民）	532,175
阿部幸代（共産）	267,289
志良以栄（諸）	14,947
	（投票率 17.80%）

平成3.9.29 参院福岡選挙区

本村和喜（自民）の死亡

○重富吉之助（自民）	556,176
------------	---------

牧野苓子(社会)	365,026
本庄庸(共産)	97,877
	(投票率 29.23%)

平成4.2.9 参院奈良選挙区

新坂一雄(連合)の死亡

○吉田之久(連合)	244,930
榎信晴(自民)	178,002
今井光子(共産)	55,927
	(投票率 47.10%)

平成4.3.8 参院宮城選挙区

栗村和夫(社会)の死亡

○萩野浩基(連合)	396,532
小野寺信雄(自民)	393,615
辻畑尚史(共産)	67,378
	(投票率 52.39%)

平成4.3.29 衆院群馬2区

中島源太郎(自民)、須永徹(社会)の死亡

○谷津義男(自民)	106,600
○中島洋次郎(自民)	89,066
須永敏江(社会)	66,432
小菅啓司(共産)	7,615
	(投票率 67.03%)

平成4.4.12 参院茨城選挙区

狩野明男(自民)の死亡

○狩野安(自民)	357,265
奈良達雄(共産)	104,358
	(投票率 22.34%)

平成4.7.26 第16回参議院議員通常選挙

平成5.7.18 第40回衆議院議員総選挙

平成5.7.18 参院福島選挙区

石原健太郎(自民)の辞職(衆院選立候補)

○太田豊秋(自民)	629,369
飯村微光(社会)	317,143
佐藤克朗(共産)	151,153
	(投票率 73.90%)

平成5.7.18 参院岐阜選挙区

藤井孝男(自民)、高井和伸(連合)の辞職(ともに衆院選立候補)

○笠原潤一(自民)	568,744
○岩崎昭弥(社会)	385,931
山本博幸(共産)	144,720
	(投票率 73.79%)

平成5.12.5 参院広島選挙区

藤田雄山(自民)の退職(知事選立候補)

○溝手顕正(自民)	305,413
山本誠(社会)	176,851
村上昭二(共産)	45,936
	(投票率 24.85%)

平成6.9.11 参院愛知選挙区(再選挙)

新聞正次(無)の当選無効(公選法違反)

○都築讓(諸)	931,936
水野時郎(諸)	544,637
末広真樹子(無)	473,703
大村義則(共産)	114,693
牧野剛(無)	88,883
志良以栄(諸)	8,244
千葉徹(諸)	5,809
	(投票率 42.87%)

平成7.7.23 第17回参議院議員通常選挙

平成7.11.19 参院佐賀選挙区

大塚清次郎(自民)の死亡

○岩永浩美(自民)	184,031
天本俊正(新進)	125,447
柴田久寛(社会)	36,762

松尾義幸(共産) 22,058
(投票率 56.25%)

大石正光(無) 66,955
芳賀芳昭(共産) 8,660
(投票率 61.36%)

平成8.3.24 参院岐阜選挙区

大野明(自民)の死亡

○大野つや子(諸) 398,801
吉岡徹男(新進) 227,757
山本博幸(共産) 162,597
(投票率 50.26%)

平成10.2.1 衆院茨城5区

塚原俊平(自民)の死亡

○岡部英男(自民) 59,084
藤田邦良(共産) 13,108
高木豊(無) 5,206
(投票率 33.96%)

平成8.10.20 第41回衆議院議員総選挙

平成8.10.20 参院栃木選挙区

森山真弓(自民)の辞職(衆院選立候補)

○上吉原一天(自民) 394,438
小倉康延(新進) 261,586
野村節子(共産) 137,279
(投票率 56.71%)

平成10.2.22 衆院長崎4区

金子原二郎(無)の辞職(知事選立候補)

○宮島大典(自民) 86,181
松田九郎(自由) 67,614
吉村庄二(社民) 37,697
清水秀記(共産) 6,282
(投票率 71.14%)

平成8.11.17 参院兵庫選挙区

河本三郎(自民)の退職(衆院選立候補)

○芦尾長司(諸) 399,136
大沢辰美(共産) 371,559
志水源司(無) 95,253
(投票率 21.19%)

平成10.3.15 衆院長崎1区

西岡武夫(自由)の辞職(知事選立候補)

○倉成正和(自民) 68,443
山崎泉(民主) 52,438
寺田善則(共産) 13,860
(投票率 38.14%)

平成9.11.16 参院宮城選挙区

市川一郎(無)の退職(知事選立候補)

○岡崎トミ子(民主) 283,255
土井喜美夫(諸) 112,098
遠藤いく子(共産) 101,106
佐藤芳博(社民) 49,902
(投票率 31.11%)

平成10.3.29 衆院東京4区

新井将敬(自民)の死亡

○森田健作(自民) 50,242
松原仁(無) 35,521
徳留道信(共産) 35,150
上田哲(無) 18,305
佐竹弘靖(自由) 6,254
山口節生(無) 662
(投票率 37.65%)

平成9.12.14 衆院宮城6区

菊池福治郎(無)の辞職

○小野寺五典(自民) 73,881

平成10.6.14 衆院熊本1区

細川護熙(民主)の辞職

○岩下栄一(自民)	67,620
松野頼久(民主)	57,606
川上紗智子(共産)	23,240
丸山澄雄(社民)	11,225
(投票率 47.96%)	

平成10.7.12 第18回参议院議員通常選挙

平成10.8.23 衆院富山2区

住博司(自民)の死亡

○宮腰光寛(自民)	66,814
西尾政英(無)	52,151
住一郎(無)	30,631
折田誠(共産)	8,015
(投票率 62.87%)	

平成10.8.23 衆院石川1区

奥田敬和(民主)の死亡

○奥田建(民主)	78,788
岡部雅夫(無)	42,024
尾西洋子(共産)	18,989
(投票率 41.23%)	

平成10.11.8 参院和歌山選挙区

世耕政隆(自民)の死亡

○世耕弘成(自民)	197,388
浜田真輔(諸)	123,297
原矢寸久(共産)	73,092
(投票率 46.61%)	

平成11.4.11 衆院東京2区

鳩山邦夫(民主)の辞職(知事選立候補)

○中山義活(民主)	134,265
中島東(共産)	54,940
(投票率 62.91%)	

平成11.4.11 衆院東京15区

柿沢弘治(無)の退職(知事選立候補)

○木村勉(自民)	89,605
吉田和子(民主)	53,490
房宗治(共産)	32,551
(投票率 60.73%)	

平成11.4.11 衆院静岡8区

北脇保之(民主)の辞職(市長選立候補)

○塩谷立(自民)	98,795
鈴木康友(民主)	82,318
中谷則子(共産)	22,510
(投票率 60.87%)	

平成11.10.17 参院長野選挙区

村沢牧(社民)の死亡

○羽田雄一郎(民主)	358,949
深沢賢一郎(自民)	244,679
山口典久(共産)	143,909
布目裕喜雄(社民)	105,472
(投票率 49.59%)	

平成12.2.27 衆院宮城6区

小野寺五典(自民)の辞職

○大石正光(民主)	54,735
菅野哲雄(社民)	40,097
伊藤智巳(無)	11,076
芳賀芳昭(共産)	9,324
(投票率 48.04%)	

平成12.4.16 参院熊本選挙区

阿曾田清(自由)の辞職(知事選立候補)

○魚住汎英(無)	386,674
香山真理子(民主)	322,229
林田陽一(無)	73,923
西川悦子(共産)	73,617
(投票率 61.85%)	

平成12.6.25 第42回衆議院議員総選挙

平成12.6.25 参院石川選挙区

馳浩（自民）の辞職（衆院選立候補）

○沓掛哲男（自民）	369,915
橋本和雄（無）	167,338
尾西洋子（共産）	71,887
	(投票率 68.70%)

平成12.6.25 参院三重選挙区

平田耕一（自民）の辞職（衆院選立候補）

○高橋千秋（無）	429,240
橋爪貴子（自民）	399,800
谷中三好（共産）	112,875
	(投票率 67.15%)

平成12.6.25 参院愛媛選挙区

塩崎恭久（自民）の辞職（衆院選立候補）

○関谷勝嗣（自民）	414,596
成見憲治（民主）	181,252
谷田慶子（共産）	103,994
	(投票率 60.89%)

平成12.10.22 衆院東京21区

山本譲司（無）の辞職

○川田悦子（無）	51,008
加藤積一（自民）	48,883
長島昭久（民主）	25,843
工藤てい子（社民）	13,627
	(投票率 40.39%)

平成12.10.22 参院滋賀選挙区

奥村展三（さき）の辞職（衆院選立候補）

○山下英利（自民）	205,365
法雲俊邑（民主）	156,191
川内卓（共産）	63,099
	(投票率 41.90%)

平成13.7.29 第19回参議院議員通常選挙

平成13.10.28 衆院宮城4区

伊藤宗一郎（自民）の死亡

○伊藤信太郎（自民）	63,745
本間俊太郎（無）	48,871
山条隆史（民主）	11,683
小野敏郎（共産）	9,281
	(投票率 42.59%)

平成13.10.28 衆院滋賀2区

小西哲（自民）の死亡

○小西理（自民）	99,572
田島一成（民主）	76,154
成宮恵津子（共産）	15,765
	(投票率 45.83%)

平成14.4.28 衆院和歌山2区

岸本光造（自民）の死亡

○石田真敏（自民）	71,631
岸本健（無）	60,398
奥村規子（共産）	13,094
	(投票率 62.49%)

平成14.4.28 参院新潟選挙区

真島一男（自民）の死亡

○黒岩宇洋（無）	541,881
塚田一郎（自民）	342,207
桑原加代子（共産）	132,672
	(投票率 52.44%)

平成14.10.27 衆院山形4区

加藤紘一（無）の辞職

○斎藤淳（民主）	51,437
寒河江孝允（無）	33,858
須藤美也子（共産）	20,877
	(投票率 43.54%)

平成14.10.27 衆院神奈川8区

中田宏（無会）の退職（市長選立候補）

○江田憲司（無）	50,671
山際大志郎（自民）	29,267
折田明子（民主）	19,997
大森興治（無）	13,108
宗田裕之（共産）	12,129
	(投票率 33.66%)

平成14.10.27 衆院新潟5区

田中真紀子（無）の辞職

○星野行男（無）	69,146
石積勝（無）	60,045
桑原加代子（共産）	15,298
	(投票率 51.86%)

平成14.10.27 衆院大阪10区

辻元清美（社民）の辞職

○松浪健太（自民）	43,252
吉田康人（無）	36,328
菅野悦子（共産）	23,795
江村利雄（民主）	15,876
北岡隆浩（諸）	2,722
水谷洋一（無）	2,453
高谷仁（無）	1,516
西村聡文（無）	404
	(投票率 41.45%)

平成14.10.27 衆院福岡6区

古賀正浩（自民）の死亡

○荒巻隆三（自民）	84,740
古賀一成（民主）	61,080
延嘉隆（無）	24,123
丸林秀彦（共産）	7,820
	(投票率 49.00%)

平成14.10.27 参院千葉選挙区

井上裕（無）の辞職

○椎名一保（自民）	509,688
若井康彦（諸）	422,185
浅野史子（共産）	197,699
	(投票率 24.14%)

平成14.10.27 参院鳥取選挙区

坂野重信（自民）の死亡

○田村耕太郎（無）	90,274
藤井省三（無）	86,562
勝部日出男（諸）	73,383
市谷知子（共産）	22,187
	(投票率 56.35%)

平成15.4.27 衆院茨城7区

中村喜四郎（無）の退職（被選資格の喪失）

○永岡洋治（自民）	70,251
吉原英一（無）	51,798
加藤真砂子（自由）	34,608
稲葉修敏（共産）	6,890
	(投票率 53.80%)

平成15.4.27 衆院東京6区

石井紘基（民主）の死亡

○小宮山洋子（民主）	99,600
越智通雄（自民）	57,783
田中美代子（共産）	20,483
	(投票率 40.63%)

平成15.4.27 衆院山梨3区

横内正明（自民）の辞職（知事選立候補）

○保坂武（無）	98,509
深沢久（共産）	29,054
	(投票率 54.51%)

平成15.4.27 参院茨城選挙区

久野恒一（自民）の死亡

○岡田広（自民）	717,140
----------	---------

小島修（共産） 172,455
(投票率 39.61%)

平成15.10.26 参院埼玉選挙区

浜田卓二郎（無）の退職（知事選立候補）

○関口昌一（自民） 648,319
嶋田智哉子（民主） 635,332
阿部幸代（共産） 232,850
(投票率 27.52%)

平成15.11.9 第43回衆議院議員総選挙

平成16.4.25 衆院埼玉 8 区

新井正則（無）の退職

○柴山昌彦（自民） 52,543
木下厚（民主） 46,945
柳下礼子（共産） 17,655
(投票率 35.22%)

平成16.4.25 衆院広島 5 区

池田行彦（自民）の死亡

○寺田稔（自民） 78,769
三谷光男（民主） 71,287
松本進（共産） 5,888
(投票率 55.52%)

平成16.4.25 衆院鹿児島 5 区

山中貞則（自民）の死亡

○森山裕（自民） 115,820
堅山勲（民主） 16,029
茅野博（共産） 8,038
(投票率 54.92%)

平成16.7.11 第20回参議院議員通常選挙

平成17.4.24 衆院宮城 2 区

鎌田さゆり（民主）の退職

○秋葉賢也（自民） 58,023
門間由記子（民主） 52,381
菊地文博（無） 22,702
五島平（共産） 8,358
田山英次（社民） 6,808
(投票率 36.75%)

平成17.4.24 衆院福岡 2 区

古賀潤一郎（無）の退職

○山崎拓（自民） 96,174
平田正源（民主） 78,311
山田博敏（共産） 9,868
西村健志郎（無） 3,292
浜武振一（無） 2,857
藤本豊（無） 1,004
(投票率 45.99%)

平成17.9.11 第44回衆議院議員総選挙

平成17.10.23 参院神奈川選挙区

斎藤勁（民主）の退職（衆院選立候補）

○川口順子（自民） 1,150,868
牧山弘恵（民主） 765,589
畑野君枝（共産） 375,507
(投票率 32.74%)

【参考文献】

朝日新聞選挙本部編『朝日選挙大観』朝日新聞社, 1997.

衆議院, 参議院編『議会制度百年史 衆議院議員名鑑』[衆議院], 1990.

同『議会制度百年史 貴族院・参議院議員名鑑』[衆議院], 1990.

東大法・第5期蒲島郁夫ゼミ編『参議院の研究 第1巻 選挙編』木鐸社, 2004.

『参議院便覧 平成17年4月編』参議院事務局, 2005.

『衆議院先例集 平成15年版』衆議院事務局, 2003.

『選挙年鑑』1950～2002, 出版年により出版者は全国選挙管理委員会事務局, 自治庁選挙部, 自治省選挙部, 総務省
自治行政局選挙部と変遷している。

各都道府県選挙管理委員会発行の『選挙の記録』等

各都道府県発行の公報

新聞等

(各資料間のデータに齟齬がある場合は、選挙結果については都道府県選挙管理委員会の発表しているデータを、
議員名及び補選事由については衆議院または参議院の発表しているデータを原則として掲載した)